

“有機農業”はこんな農業です。

1 化学肥料や化学合成農薬を使用しない



2 環境への負荷をできる限り低減する

3 遺伝子組換え技術を利用しないことを基本とする



もっと知りたい方はこちら ▶

(農林水産省HP : <http://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/yuuki/index.html>)





有機JASマークは、**信頼の証。**



1 有機JAS規格 (※) の基準に従って生産する



2 第三者機関が検査し認証される



3 有機JASマークを表示して販売可能に

※有機JAS規格とは

たい肥による土作りを基本とし、は種又は植付け前2年以上化学肥料や化学合成農薬を使用しないほ場で生産するなど、環境への負荷を低減した持続可能な生産方式の基準。

有機JAS×ちよびっとづかん 動画公開中！ ▶



有機農業 II 生き物たくさん？

田んぼの中の生きものを調べてみました！

調査マニュアル（注1）により、田畑の生きもの調査を行いました。



<トンボ類の調査>

アカネの抜け殻
発見！



<コモリグモ類の調査>

コモリグモ
発見！



<カエル類の調査>

ニホンアカガエル
発見！



棒でつつきながら探す！



<水生コウチュウ・水生カメムシ類の調査>

水生コウチュウ
発見！



水田に網を入れて探す！

写真は、茨城県庁や筑西市役所の方々による調査の様子です。

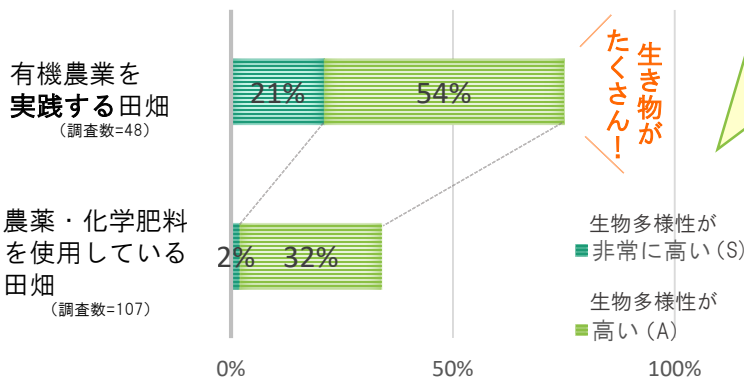
（注1）（独）農業環境技術研究所「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニュアル」
（農業環境技術研究所HP：http://www.naro.affrc.go.jp/archive/niaes/techdoc/shihyo/）



有機農業を実践する田んぼや畑には生き物がたくさん！

有機農業を実践する田畑と、農薬・化学肥料を使用している田畑の生き物の数により、生物多様性保全の効果を評価しました。

▼ 生物多様性が高い田畑の割合 ▼



生き物の数に応じて、田畑を4段階で評価（注2）

評価	
S	生物多様性が非常に高い。 取組を継続するのが望ましい。
A	生物多様性が高い。 取組を継続するのが望ましい。
B	生物多様性がやや低い。 取組の改善が必要。
C	生物多様性が低い。 取組の改善が必要。

（注2）「農業に有用な生物多様性の指標生物調査・評価マニュアル」に従い評価。

